



地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローバル型)

九里学園高等学校



九里学園高等学校
KUNORI GAKUEN HIGH SCHOOL

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 グローバル型指定

想・創 まほらディア

世界に誇れる持続可能な置賜を創造する人材の育成

グローバル連携

- Hawaii Global Education Fundation
- NPO法人LOOB
- 埔里高級工業職業学校
- 私立明達高級中学
- Calros Albert High School



運営指導委員会

- 森田明彦：尚絅学院大学名誉教授
- 甲斐信好：拓殖大学国際学部長
- スルトノフ ミルドサイド：東北公益文科大学教授
- 金光秀子 米沢栄養大学教授
- 遠藤直樹 米沢市役所企画調整部長
- 本田勝 JICA東北市民参加協力課長

グローバル・ラーニング 学びの構造

グローバルα
グローバル課題研究

「SDGs」
貧困・格差
難民・移民
食料問題
環境問題
模擬国連
政策提言

グローバル・ラーニング

知見の相互双方向的応用

グローバルβ
ローカル課題研究

1年 PBL（グループ）
地域フィールドワーク
（高畠町・飯豊町など）
外国人とのワークショップ
2年 PPL（個人）
3年 APL（英語論文）

高大連携
中間発表
外部イベント参加

グローバル・シティズンシップ・プログラム

タレント塾（世界の第一線で活躍する方の講演など）
地球塾（山形大学留学生との協働学習プログラム）
Edge-Next（山形大学人材育成プロジェクト）

グローバルαの成果

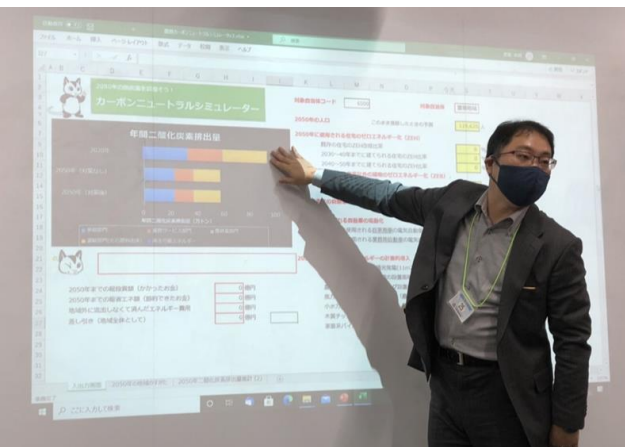
1年間の体系的なカリキュラムの構築

NPO法人IVYやJICA東北との連携

大学との定常的な連携プログラム

グローバルカレンダー

ワークショップ教材の作成（中学校への出前講座）・教員の研鑽と負担軽減・知的好奇心（探究心）
 授業の質的向上・単元の質的向上・他校との模擬国連・教科横断型学習・思考法の獲得・ICTの活用



グローバルカレンダー											
グローバルβ					グローバルα						
週	月日	時間	学習内容・単元			備考	月日	時間	学習内容・単元	備考	
	4月14日(水)	6		1年PBL	2年PPL	3年PAL		4月16日(金)	5・6	LHR	
	4月21日(水)	6	探究とは？探究学習の考え方 各プロジェクト ブリーフィング		SDGsトレーディングカードゲーム	英語論文執筆開始		4月23日(金)	5・6	SDGs入門	導入
	4月28日(水)	6	探究とは？探究学習のやり方		テーマ決定ワークショップ RESASワークショップ③ 地方のチェンジ・メイカー育成プログラム	英語論文執筆	1年歯科検診	4月30日(金)	5・6	授業なし	生徒総会等
	5月12日(水)	授業なし						5月7日(金)	5・6	貧困・格差	格差
	5月19日(水)	6	FW振り返り			英語論文執筆	5月17日 第1回高島町FW	5月14日(金)	5・6	SDGsワークショップ	SDGs理解(導入)
5月第3	5月26日(水)	6	多文化共生ワークショップ (横山さん・タイラーさん)			英語論文執筆		5月21日(金)	5・6	カカオ農園	貧困・児童労働
5月第4	6月2日(水)	6	未来カルテ「バックキャスト思考」 (対面実施予定)					5月28日(金)	5・6	違いの違い	教育格差・人権
6月第1	6月9日(水)	6	未来カルテ「地域・社会調査の方法」 (オンライン実施予定)				飯島町 SDGsFW	6月4日(金)	授業?	特別時間割	組織体
6月第2	6月16日(水)	6	未来カルテ「釧路地域の2050年」 (対面実施予定)					6月11日(金)	5・6	難民	人権・平和・共生
6月第3	6月23日(水)	6	外国人との座談会	テーマ・構想発表準備	英語論文 アクションプランの作成	英語論文 ネイティブチェック期		6月18日(金)	5・6	難民	人権・平和・共生
6月第4	6月30日(水)	授業なし			定期考査			6月25日(金)	5	振り返り	
7月第1	7月7日(水)	6	各プロジェクト振り返り、 プロジェクト選択アンケート調査実施		テーマ・構想発表 クラス内 or 3年生助言者	助言者	7月6日 第2回高島町FW	7月2日(金)		授業なし	定期考査
7月第2	7月14日(水)	6	アンケート結果より、 プロジェクト決定		テーマ・構想発表振り返り 夏休みのアクションプラン修正	英語論文 ネイティブチェック期間		7月9日(金)	5・6	国連弁当	
7月第3	7月21日(水)	授業なし			全校集会			7月16日(金)	5・6	国連弁当 模擬国連	食糧問題
7月第4	8月25日(水)	授業なし			文化祭準備			8月27日(金)	授業なし	文化祭	文化・多様性
7月第1	9月1日(水)	6	各プロジェクトに分かれて探究開始	アクションプラン実行の振り返り		英語論文提出		9月3日(金)	5・6	食糧問題	国連弁当から食糧問題 まで同じ国を担当
9月第1	9月8日(水)	6	各プロジェクトに分かれて探究	中間発表準備				9月10日(金)	5・6	食糧問題	
9月第2	9月15日(水)	6		中間発表(2年生) (1・3年生は助言者)				9月17日(金)	5・6	食糧問題	
9月第2	9月22日(水)	6		テーマ・アクションプラン発表(1年生) (2・3年生は助言者)				9月22日(水)	1・2	食糧・模擬国連	
9月第3	9月29日(水)	授業なし			修了式			9月24日(金)	5・6	振り返り	

グローバル・カレンダーを軸として授業展開

今年度からの研究主題 = 教科横断型学習 ⇒ 次年度各教科での研究授業
教員研修 = カリキュラム開発専門家（芝浦工業大学谷田川教授）から教育的効果と事例紹介
地域協働推進事業研究開発推進委員内で先行研究

• 地理B

GIS(地理情報処理システム)を用いた授業により、探究学習に必須となる統計や諸資料を参照し、それらの情報を正確に把握し考察できる技能を育成した。また、模擬国連のテーマに合わせ、気候・地球温暖化の概念やその捉え方や、「農業」や「気候」の単元では、自身の担当する国などを中心に資料を参照し、それぞれの諸問題の背景やそれに至るプロセスやメカニズムを明らかにしたりした。

• コミュニケーション英語

Lessonの配列を変更しながら、探究課題に合わせて授業を展開した。例えば、食料問題の探究課題の時には、垂直農法に関するLessonを行い、食糧問題に対する世界の取り組みを英語で学習した。また貧困の探究課題の時には、ベネズエラの貧困問題への対策事例に関するLessonを取り扱った。探究学習である程度背景知識が活性化されているところで導入するため、英語の理解度は高まっている。

• 現代文B

グローバルの単元に合わせ、同じテーマの評論の単元を扱い、小論文で意見を書かせるなど、グローバルでの学びと現代文での学びを融合させて考察を深めさせるように意識した。特に、グローバルでは「議論をする」「意見を述べる」と言った「話す」「聞く」の領域が主となるため、現代文Bでは「書く」ことで考えを整理した。担当者がグローバルの授業を行っているため、意図的にグローバルと比較したり、補足したりしながら生徒の学びを深めるができた。

• 生物

グローバルの単元での学びを深めたり、検証したりする授業を展開した。特に「食糧問題」で扱った遺伝子組み換え作物や、プラスチックゴミの問題など、生物学的な見方や海洋科学技術センターから資料を提供したいただいたりしながらより科学的根拠をもとにグローバルでの学びができるように授業展開をした。

グローバルβの成果

探究学習のカリキュラム開発

高島町でのフィールドワーク

外国人との座談会

年間計画及び指導体制

計画的に協働でフィールドワークを実施・計画的な国際交流員のWSや技能実習生との座談会
ルーブリック評価・ICTを用いた高大連携・縦割りのゼミ形式体制・対象コース外の生徒への影響

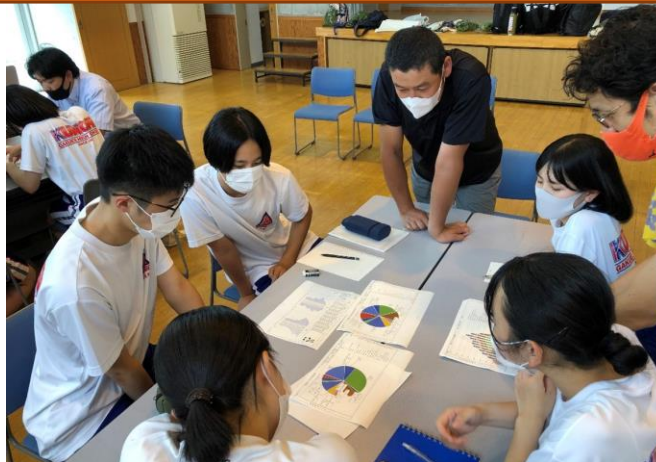


グローバルβの成果

協働体制の強化と広がり と 自走する生徒

個人←グループ←企業・団体←自治体→他の自治体→その地区の企業・団体

生徒の活動の幅の広がり・探究学習の質的向上・積極的に外に出る生徒・外部とのつながり



地域への貢献



県のSDGsフェスタで活動事例発表



地域内の高校へ探究について発表



有機農業の聖人の記録を残す



市のSDGsカンファレンスで活動事例発表



地域内の小学校へ特別授業

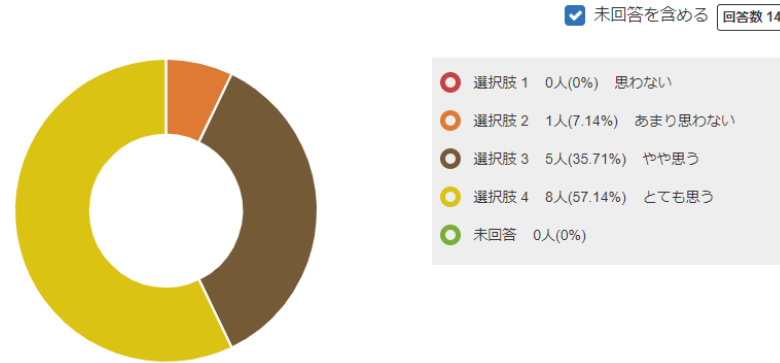


NHKでも探究活動としてとりあげていただきました。

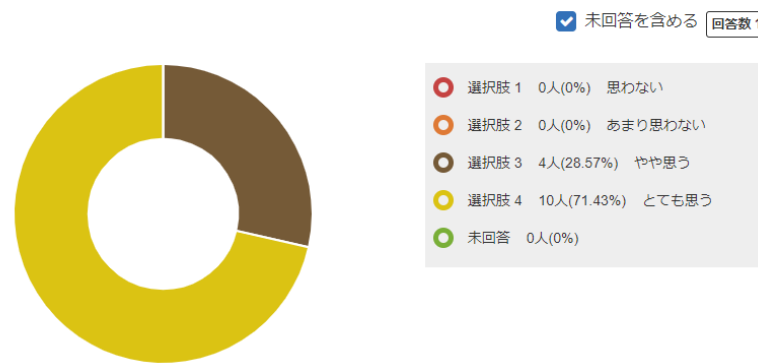


大きな生徒の成長

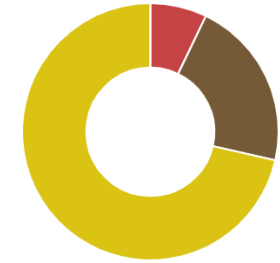
設問 1 チャレンジ精神が身についた



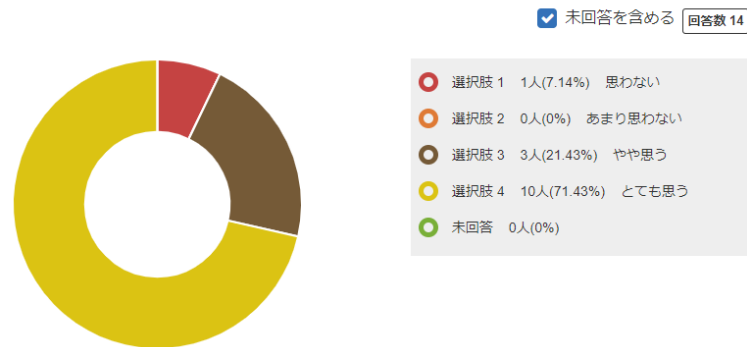
設問 8 問題発見・解決能力が身についた



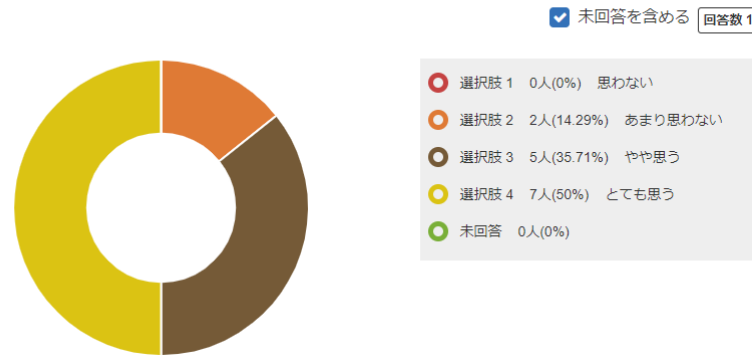
設問 1 進路決定に影響を与えている。



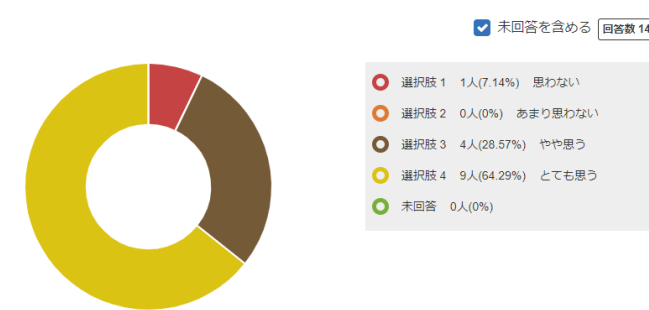
設問 8 地域の課題や世界の課題の解決に向けて (SDG s 達成へ向けて) 貢献したいと思う



設問 9 自分は社会を変える力があると思う



設問 7 自分の考えをはっきり相手に伝えたり、相手の意見を尊重し、建設的に議論ができる



自分が一年生の時は当時の三年生ってすごいとクラスのみんなが思っていた。三年生になって、後輩たちにアドバイスを与える立場になった時や、自分達が率先して意見を述べているところが、学習の成長を感じた。

九里でしかできない経験、学びはがあると実感した。高校生らしく勉強する。ではなく高校生らしく勉強し、その学びを実用的なものにするところまで落とし込めるのは九里学園ならではだ。SDGsはもちろん、カーボンニュートラル、子ども食堂、多文化共生、現代においてよく聞くフレーズだかその本質を知る人はそう多くないと考える。その本質を3年前から深く学べたのは自分にとって大きな学びだった。アウトプット、外に発信する力、発信できるまでに探究する力をみにつけたことで大学受験で活用することが出来た。

事業がもたらしたものの

- 地域、世界の中での自分の在り様を意識する
- 情熱をもって自分の探究学習について語る（真正な学びとなっている）
- 生徒の自発的な行動が誘発されている
 - 自己啓発や経営学、地方創生などのオンライン講座への参加
 - 恐れずに積極的に学校の外へ出る
- 外部とのつながり ⇒ 生徒の自己有用感がはぐくまれる
- 地域課題への関心と地域貢献への意欲・自信の向上
 - ⇒ ソーシャルキャピタルの効果
- 社会的関心の高まり
- 生徒の実感としての能力の向上と外部からの評価
- 一般的な学力と言われるものの向上（偏差値の大幅な伸び）

問題意識 × 社会貢献 × 研究 ⇒ 大学選び ⇒ 生き方